自己紹介　臨床美術画家　佐藤雅彦

1954年5月私は兼業農家の6人兄弟の次男として生まれ~ました。小学校の頃から算数が得意な作文が苦手な少年でした。夏休みの宿題は算数の部分は2、3日で全部終わりましたが、読書感想文の宿題はなかなかできませんでした。小学校、中学校では家族で田植えをしたり、稲刈りをしたり農業を手伝う少年でした。高校を出たら就職つもりだったので、高校は岐阜県立大垣工業高校電子科に通いました。高二の時に父が退職して退職金が入ったので大学に行かないと言われたので、高二から受験勉強を開始し、名城大学理工学部数学科に現役で合格しました。

大学卒業後は、一時中学の数学の教師をしていましたが、教師には向かないと思って、IT企業のシステムエジニアに転職しました。32歳の時に、川口市の新築の東南角屋の4 DKのマンションを購入しました。第一回マンション管理組合総会で押されて、管理組合理事長に就任しました。　当時の私はシステムエンジニアとして仕事をしながら、管理組合の仕事と労働組合の役員の仕事で多忙を極め、体調を崩し休職することになりました。復職すると、SEの仕事は大変だろうと言うことで、事務職に配置転換になりました。そこで仕事のやりがいを失いました。それで自宅マンションの郵便受けに近くの教会から聖書の勉強をしませんかと言うビラが入っていたので、聖書の勉強をして40歳の手前に川口福音自由教会で洗礼を受けクリスチャンになりました。

2005年10月アルツハイマー型認知症と診断だなされ、2006年2月25年勤めた会社を退職しました退職後は、教会の聖歌隊で歌を歌ったりしてそれなりに充実した生活をしていましたが、2006年の4月に父が亡くなり、急に将来のことが心配になり、体調崩し、食事の準備もできなくなり、弟の助言で、岐阜の実家の兄のところに50日間引きこもりました。実家ではすることがなく、2006年の8月に川口の自宅マンションに帰ってきました。診断後、初めて支援団体とつながったのは、若年認知症家族会、彩星(ほし)の会でした.。彩星の会からいろんな情報を得て、認知症介護研究東京センターの研究部長の永田久美子さんと知り合いになり、永田久美子さんの勧めで認知症の体験を話すようになりました。

2011年、認知症と家族の会の世話人から臨床美術の絵を描かないと誘われて、臨床美術で絵画を描くことを始めました。2014年に認知症の全国組織、日本認知症ワーキンググループが立ち上げで共同代表に就任しました。そして同年永田久美子さんのお勧めで認知症の体験談を綴った。『認知症になった、私が伝えたいこと』を、大月書店より出版しました。2015年、その本を元に、NHKの1時間ドラマとして作成、放映されました。私の役は緒方直人さんが演じてくれました。2016年からピアノを習い始め、2017年には絵と写真展の個展を川口市で開催しました。2019年65歳の時ピアノの発表会をしました。同年65歳記念自分史を自費出版で出版。2014年に食事が作れなリ、ケアハウスに移りました。2020年最初の画集『佐藤雅彦　希望の世界2020』を自費出版。2023年8月、健康に自信がなくなったので、介護付き老人ホームに移りました。今は老人ホームで絵を描きながら悠々自適な生活を送り、2024年7月に2冊目の画集『佐藤雅彦　古希記念臨床美術作品集』を自費出版で出版しました。左画集写真